

# 第12回(平成27年度)協会活動有功賞受賞者

協会活動有功賞は、当協会の運営、事業などの活動で顕著な貢献のあった者を表彰することにより、会員の協会活動に対する参加意欲の増大を促すとともに、協会活動の更なる発展を図ることを目的として創設されたものです。

かけがわ かずゆき  
掛川 一幸 氏 (千葉大学)

## 日本セラミックス協会の情報発信における貢献



掛川一幸氏は、昭和58年より2年間、窯業協会誌編集委員、同60年より現在まで(途中5年間休任)電子材料部会役員、同年より10年以上にわたり行事企画委員、平成11年より10年以上出版委員(同18年より2年間委員長、出版理事)、同12年より10年以上関東支部常任幹事等を務め、日本セラミックス協会に貢献してきた。窯業協会誌編集委員任期中には、抄録小委員長としてタイトルサービスを新たに始めた。また、パソコン通信を用いた公開のシステムを構築した(平成5年度)。行事企画委員任期中には、協会本部に初めてインターネットを導入した(平成8年度)。電子材料部会役員としては、電子材料研究会(昭和62年度)、入門講座分科会、ホームページ(以下HPと省略)等の主査を務めた。入門講座では、実演を10年以上にわたり担当してきている。関東支部常任幹事としては、研究発表会とHPの主査を務めた。研究発表会として、千葉県での発表会を2回開催した。平成17年には、HP主査としてHPの管理の仕方を改革した。この方法は、電子材料部会HP分科会主査を務めた際にも導入し、電子材料部会のHPも常に最新の情報を発信できる体制を確立した。以上のように、同氏は長きにわたり協会の情報発信の推進に対して顕著な貢献をなしており、協会活動有功賞に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和46年千葉大学工学部卒業、同48年同大学大学院工学研究科修士課程修了、同48年千葉大学工学部助手、同56年工学博士(東京工業大学)、同63年千葉大学工学部助教授、平成10年同大学大学院自然科学研究科教授、以降、工学部、大学院工学研究科に所属変更、同26年同大学を定年退職、同年千葉大学グランドフェロー・名誉教授。

たかはし まこと  
高橋 真人 氏 (クアーズテック(株))

## 化学分析方法規格および標準物質に係る標準化事業に対する貢献



高橋真人氏は昭和54年に東芝セラミックス(株)(現クアーズテック(株))に入社以来、石英ガラスの不純物分析をはじめ、アルミナ、YAG、SiC素材の分析に従事するとともに、下記の多くの分析技術開発に努めてきた。①昭和60年石英中の不純物定量法検討、②平成5年炭化ケイ素中の微量ホウ素の定量法検討、③同10年電融マグネシアの不純物分析確立、④同12年ハイドロキシアパタイトの不純物分析検討、⑤同17年RoHS指令の対応分析、⑥同21年透明セラミックスの分析、⑦同25年希土類元素の分析。日本セラミックス協会原料部会(現資源・環境関連材料部会)化学分析分科会には平成5年より参加し、培ってきた高度の化学分析技術を擁して2件の日本工業規格(JIS)原案の作成、5件の協会規格(JCRS)の作成ならびに共同実験に参画して、ファインセラミックス材料の化学分析技術の標準化に大きな役割を果たした。また、アルミナ微粉末、窒化けい素微粉末、および炭化けい素微粉末の協会認証標準物質作製のための共同実験に参画して信頼性の高い分析値を報告し、認証標準物質の開発と供給に大いに貢献した。以上のように、同氏は21年間の長きにわたる活動を通じて、協会が推進する標準化事業(化学分析方法規格の標準化および標準物質の開発と供給)の推進に対して顕著な貢献をなしており、協会活動有功賞に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和54年東京都化学工業高校電気化学科卒業、同年東芝セラミックス(株)技術本部開発技術部入社、化学分析に従事、クアーズテック(株)技術開発センター研究開発グループ分析担当、現在に至る。

とどろき しんいち  
轟 眞市 氏 (国立研究開発法人 物質・材料研究機構)

## Webサービスにおける会員認証機能の実装とサーバの維持管理



轟 眞市氏は、会員限定Webサービスを実現するのに必要なID認証機能を平成13年度に導入し、事務局が管理する会員データベースとの動的連携を図るとともに、その後の協会出版物の電子公開やMyPageサービス実現の基礎を築いた。また、協会ホームページ用サーバの維持管理を現在まで継続して担当している。そのソフトウェアには、オープンソースなOSであるDebian GNU/Linuxを選定して経費節減を図り、またハードウェアの故障等の不具合を避けるため、安定運用の実績があるマイクロサーバや外部の仮想サーバへの切り替えを積極的に行った。そもそも協会のWebサービスは、同氏が平成7年度から参加した行事企画委員会データベース小委員会において立ち上げられた。その後、専門的なスキルが求められる情報セキュリティ管理を委員会活動から切り離すべく、情報委員会システム小委員会主査を小委員会の解散まで勤め(同13年10月～19年5月)、情報委員会(現広報委員会)の本務をコンテンツの充実シフトさせる道を拓いた。上記のように、同氏は協会Webサーバ会員認証機能の導入および安定運用を行うことで会員サービス向上、協会の情報発信強化に顕著な貢献を果たしており、協会活動有功賞に値するものとして推薦する。

**略歴** 平成5年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。同年日本電信電話(株)光エレクトロニクス研究所入社、同9年同社知的財産部、同10年科学技術庁無機材料研究所第9研究グループ主任研究官、同13年(独)物質・材料研究機構機能探索領域機能性ガラスグループ主任研究員、同15年同主幹研究員、現在に至る。